

先程までより強い力で亡霊たちに引っ立てられ、体勢を変えさせられる。

少年の尻に雄茎を刺したままの亡霊は床に座し、その結合部を男に向かって見せつけるように、ぱかっ脚を開かされてしまう。

「あっ、いやあ……っ！」

開かされた脚は左右に控えていた亡霊たちに膝裏を抱えられ、閉じることができない。そしてその状態で、

「あっ♡♡あああ……っ！♡ひ、いやあ……っ！♡」

繋がった場所を揺さぶるように、背後の亡霊が突き上げてくる。

「君のなかが丸見えだねえ？さっきは強気なことを言っていたが……なんだ？その淫らな孔は。亡霊の太いのをヒクヒク締め付けて……美味<sup>うま</sup>そうに啜えこんでいるじゃないか」

「ん”う……っ♡♡ち、ちが……っアあッ！♡」

ズンッ——と深く突き上げられ、入口の肉環までもがきゅうッ♡と引き絞られる。

図太い肉茎が苦しくて仕方がないのに、狭い場所を無理くりこじ開けられるこの感